


所 属	現代社会学部 現代社会学科(専攻名)		
主な担当科目	スポーツ社会学/体育史/体育原理/スポーツボランティア論/野外活動		
	氏 名	國木 孝治	
	フリガナ	クニキ タカハル	
	職 位	講師	
	学 位 等	博士(教育学)	
研究内容・社会業績等			
<p>【研究内容】 体育・スポーツ史/レジャー史/医学研究(主に、海水浴と海水浴場に関する歴史的研究) スポーツ社会学研究(地域スポーツクラブとコミュニティに関する研究) 野外教育学研究(海浜を利用した教育システムの構築に関する研究) ライフセービング(救命/教育/競技/環境/福祉に関する研究)</p> <p>【社会活動等】 東京2020オリンピック・パラリンピック: Field Cast研修講師 日本ライフセービング協会: 指導委員会委員 日本ライフセービング協会: 地域教育推進委員会委員 日本バトロールコンペティション実行委員会委員長 萩サーフ・ライフセービング・クラブ理事長 萩魅力PR大使</p>			
論文・書籍・資格等			
<p>【著書】 『教育とライフセービング』川崎裕美・岡田眞江・石井良昌編『学校保健安全の知識と実践』大学教育出版:164-167(2012).</p> <p>【論文】 『小・中・高校生の「運動・スポーツ」の好嫌と「体育」授業の意識に関する研究(2) -好・嫌の理由と運動・スポーツ時間-』至誠館大学研究紀要第7巻:65-76(2020). 『大学生のボランティア経験とボランティア観-至誠館大学生の実態について-』至誠館大学研究紀要第7巻:109-116(2020). 『小・中・高校生の「運動・スポーツ」の好嫌と「体育」授業の意識に関する研究(1) -「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌との関連性に着目して-』至誠館大学研究紀要第6巻:1-13(2019). 『至誠館大学における自然体験活動の実践力を目指した授業の取り組み-新カリキュラムにおける『野外活動(アクアスポーツ)』実習-』至誠館大学研究紀要第6巻:77-84(2019). 『長期ジュニア・ライフセービング・プログラム経験が幼児・児童のたくましい社会性に及ぼす効果』至誠館大学研究紀要第5巻:15-26(2018). 『我が国における海水浴の受容・発展に関する事例研究-大野海水浴場(潮湯治場)-』レジャー・レクリエーション研究第67号:31-45(2011). 『江戸時代後期における海水浴概念の伝播に関する研究-西洋医学書および医学教育の内容にみられる「海水浴」に着目して-』スポーツ史研究第25号:57-64(2011). 『明治期の巖島(広島県)における海水浴に関する一考察』広島体育学研究第37巻:18-25(2011). 『東日本大震災後における被災地(福島県相馬市)支援活動-Team S.O.Sによる『心のふれあいサポート』実践-』レジャー・レクリエーション研究第68号:48-51(2011). 『競技スポーツとしてのライフセービング』臨床スポーツ医学第16巻8号別冊:913-919(1999). 『海水浴場における安全管理体制に関する一考察-東京都における実態調査から-』東京体育学研究:69-74(1994). 『福岡市主婦卓球愛好会・神戸市垂水区スポーツ協会・狛江市スポーツクラブとコミュニティに関する調査』東京体育学研究:105-135(1993).</p> <p>【報告書】 『ジュニア・ライフセービング教育の実態調査報告』日本ライフセービング協会ライフセービング教育本部編(2019). 『福岡市主婦卓球愛好会・神戸市垂水区スポーツ協会・狛江市スポーツクラブとコミュニティに関する調査報告書』日本体育大学体育社会学研究室(1994).</p>			
学生へのメッセージ			
<p>吉田松陰(1830-1859)先生が1859(安政6)年(29歳)、処刑前に獄中で松下村塾の門弟に宛て著した遺書『留魂録(りゅうこんろく)』の第一節に、次の孟子の言葉を引用されています。 『至誠而不動者未之有也』(至誠にして動かざる者は未だ之れ有らざる也) ……「誠意を尽くして事にあたれば、動かぬものはない」と概ね解釈されるでしょうか。至誠館大学に学ぶ4年間は、あつと言ふ間です。限られた学生生活のなかで、誠意(真心)尽くして学び、そして色々なことに積極的に取り組んでみる…そんな有意義な4年間にしましょう。</p>			
出前講義等			
市民公開講座「心肺蘇生法～あなたにもできるちょっとした勇気～」			